

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成 29 年度 第 1 回学校関係者評価委員会

日 時 平成 29 年 4 月 14 日 16:30～17:30

会 場 横浜リハビリテーション専門学校 非常勤講師室

出席者 済生会神奈川県病院関係者様、介護老人保健施設アゼリア関係者様、学校長、副校長、理学療法学科長、作業療法学科長、ほか教職員 6 名

内 容

I. 学校長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。3 月に国家試験の合格発表があり、両学科ともに全国平均を上回りました。4 月には 120 名強の新入生を迎え、新年度をスタートしています。今後も学生ひとりひとりが学んでよかったと思える学校にするために、臨床現場の先生方からの貴重な意見を反映させ、学生教育に取り組んでまいりたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

II. 平成 28 年度報告事項および平成 29 年度課題（全て資料 1 に基づく報告と説明）

【平成 28 年度、横浜リハビリテーション専門学校 総括】

資料 1 に基づき、林副校長より、平成 28 年度総括について報告された。

1-1. 平成 28 年度総括データ

- ・ 国家試験合格率は PT 学科 98.6%、OT 学科 97.6%である。両学科も全国平均を大幅に上回っているが、目標である 100%合格は達成できなかった。
- ・ 退学率の平成 28 年度目標を 4%以下に設定した。結果、OT 学科では 7.1%となったが、これは長期休学となっていた学生が退学に至った結果である。今後、退学率ゼロを目指して、学習指導、心理的サポート、進路に対する相談を継続していきたい。
- ・ 就職内定率については、年内目標 60%は達成できていたが、年度内 100%には至らなかった。現在も 2 名が活動中である。

1-2. 平成 28 年度重点項目と達成状況

- ・ 平成 28 年度の重点項目に関する行動目標については、概ね達成できた。

【平成 28 年度の業務計画】

林副校長より、資料 1 に基づき、平成 29 年度業務計画について報告された。

2-1. 重点項目

- ・ プログテストを導入し、実習との関連について検討、学生指導に反映させていきたいと考えている。
- ・ 入学者の確保とレベルの向上については、近隣養成大学の影響もあり、継続した課題である。

III. 自己評価表（全て資料 2 に基づく報告と説明）

資料 2 に基づき、各担当より平成 28 年度の達成状況と平成 29 年度に取り組むべき課題等について報告と説明があった。

1. 教育目標・理念（林副校長）

- ・ アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては公開に関して場所・方法を検討し準備を進めていく。

2. 学校運営（林副校長）

- ・ 平成 28 年度は新学校種創設に向けて移行準備プロジェクトチームを設けた。要件は 10 月頃に明確になると推察されるため、準備を進めたい。

3. 教育活動

【シラバス・カリキュラム（中村）】

- ・ 平成 28 年度はシラバスの公開に至っていない。平成 29 年度にシラバスのフォーマットを変更したことを踏まえ、公開に向け検討を進める。

【教育力向上（田中）】

- ・ 平成 29 年度のシラバスフォーマット変更在先立ち、校内教員研修会を実施した。

【臨床実習（瀬戸山）】

- ・ 平成 28 年度も滞りなく業務を遂行できた。

【情報公開（中村）】

- ・ シラバスの公開と共に、授業アンケート結果及び対応などの公開についても検討を継続する。

4. 教育成果

【資格・卒業研究（田中）】

- ・ 現在、障がい者スポーツ指導員初級の認定校であるが、中級認定校申請に向け、カリキュラム等を確認し検討、申請に応じた準備を進める。

【国家試験・卒業試験（秋本）】

- ・ 平成 29 年度卒業試験は、回数をこれまでの 2 回から 3 回へ変更し、全問題について解説を配布する。今後、それぞれの試験における合格基準について検討を行う。

【臨床実習（中村・水島）】

- ・ PT 学科 3 年次の不可 2 名については、進路変更を理由に退学となったため、追加実習を実施していない。
- ・ PT 学科 4 年次臨床実習で導入する『症例のまとめ』（横浜市立脳卒中・神経脊椎センターリハビリテーション部ご協力）について、使用状況を把握するためにアンケート調査を実施する。
- ・ OT 学科では MTDLP 推進協力 B 校から A 校へのランクアップを踏まえ、実習施設に MTDLP の活用を促す。

【留年・退学者防止、卒業生（中村）】

- ・ 平成 28 年度は、これまでの長期休学者が退学に至ったため、退学率が上昇したと考えている。

5. 学生支援

【社会性（田中）】

- ・ 社会性に問題のある学生に対しては、より個別性を重視した指導を行う

【行事（机）】

- ・ 学園祭では、パンフレットに記載された開催時間と実際の開催時間が異なっていたため、次年度は時間を周知徹底する。
- ・ 地域作業所の出店については、両日開催できるように協力依頼施設数を増やす。

【個別指導（中村）】

- ・ リハビリテーション教育評価機構から高い評価をいただいた。

【防犯、就職支援、災害対策、経済援助（宮野）】

- ・ 就職活動については、国家試験対策担当教員との連携を密に学生支援を行う。また、今年度も8月、10月に本校にて合同就職説明会を実施する予定である。
- ・ 同窓会は、運営方法の見直しや問題点の改善に時間を費やしたため、勉強会を実施できなかった。

6. 教育環境

【教室（宮野）】

- ・ 平成28年度、校内全フロアで無線LANが使用可能となった。

【図書・設備・備品（杉山）】

- ・ 図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、蔵書利用者の増加を図る。

7. 学生募集

【学生募集（宮野）】

- ・ 平成29年度生より入試科目を小論文から国語に変更した。
- ・ 平成29年度生は定員を超過しており、次年度も超過しないよう、より注意が必要である。

8. 社会貢献・地域貢献（宮野）

- ・ チャレンジスクールに関しては、平成29年度より本学園の放課後児童クラブの体験イベントに変更する。

9. 法令等の遵守

【法令遵守（林副校長）】

- ・ 定員については、平成29年度生は入学辞退者が予測を下回り、超過している状況となった。
- ・ WFOTならびにリハビリテーション教育評価機構を受審し、2022年3月31日までの期間で認定を受けた。

IV. 質問・意見

木下先生：大学が増設され、辞退者等で影響はどうか。辞退者が少ないということは横リハがいいと判断する受験生が多いということか。

宮野：平成29年度生については、推薦入試を強化したことから、予測より併願者が少なく、よって辞退者が少ない結果となった。

大場先生：プログテストとはどのようなものか。

中村学科長：ジェネリックスキルを、リテラシー（問題解決力）、コンピテンシー（社会性）の2つの側面から測るテストである。いろいろな分野・領域で導入されており、他の領域の学生と比較検討ができると考えている。今後は学業や実習等、学生支援へ活用したい。

大場先生：何か傾向がでるのか。

中村学科長：コンピテンシーと実習成績との関連性が認められるようであれば、学生指導への活用範囲が広がるのではないかと考えている。

林副校長：経年的変化も捉えることができる。

橋本校長：入試段階で導入することはできないか。

中村学科長：まずは、在校生の傾向を確認し、関連性を検討したいと考えている。

林副校長：IT関連への取り組みを今後進めるにあたって、委員の先生方から現場の情報やご意見をうかがいたい。

木下先生：リハ分野においても、HAL などのロボット活用が進むと予測している。ぜひロボットを活用したリハについて、学校教育に取り入れてほしい。

橋本校長：カリキュラム上、どのように取り入れられるか。

水島学科長：特別講義等で検討していきたいと考えている。

木下先生：慶応大学は BMI リハビリテーションシステム領域で、済生会神奈川県病院と協力し治験を実施している。

大場先生：当施設はさがみロボット産業特区にあるため、パワーアシストハンドやコグニティブを導入している。学生教育に導入されることで、メカに強いスタッフの育成に期待ができる。

V. 次回の会議について

次回の会議開催についてですが、開催時期を考慮した結果、平成 29 年 10 月 27 日（金）に開催する方向で調整させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

以上
文責：田中